

初孫の誕生

7月12日、清水での定例の役員会議の最中に、中国の杭州にいる次男大樹から、今朝方無事長男が生まれたと報告を受けた。中国ではごく当たり前らしい帝王切開でだが、3800グラムで五体満足で生まれてくれたらしい。正直嬉しいし、また感慨深くもある。次男大樹は4年ほど前に杭州の中国人女性姚雁雲さんと結婚していたが、しばらく子宝に恵まれないでいた。名前は「拓海」（たくみ）と名付けられた。2002年に単身海を越えて中国に渡った大樹が、自分の努力で切り拓いた世界（仕事&奥さん）の果実でもあり、またその世界を継承する者になつてほしいという意味で「拓海」とした（大樹の「拓海」案に、私がそう意味づけて賛成したというのが実際だが）。

日本人と中国人の子供という事で、初孫拓海には多少の波乱の人生が待ち受けているかもしれないが、たくましく育てて欲しいと心から思う。拓海の父、大樹もまたある意味波瀾の人生を送っている。小学生の頃からやんちゃではあったが、中学生の頃、同級生のやぐざの娘を庇って、隣の番町グループからの襲撃を受け、それもなんと家の前で乱闘を始めたので、あわてて私が警察を呼んで、大樹もろとも連行して貰って事なきを得た。高校は小学生、中学生とサッカー部のエースだったこともあり、サッカー推薦で、サッカーでは名門の清水商業に入ったが、監督との折り合いが悪く、やめてしまった。サッカーで推薦されて入ったのにサッカー部をやめたのなら、高校も辞めると頑固な父親が筋論を言うので、本人は単位制の高校に行き、昼間は鉄筋工、夜は高校生という生活を始めた。が、鉄筋工の肉体労働はこなしたが、学業の方が続かない。これでは中卒で終わってしまうと、焦った父親が頼み込んで先は、タクシージャパンの高橋社長の紹介で、東京コンドルタクシーグループ

清野吉光氏のコラム 第22回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

「親」ならではの目に見えぬ報酬!



の岩田社長であった。快く引き受けてくれた岩田社長の下で、燃料スタンドの給油係をしながら、夜間高校の大山高校に通う。無事卒業できたと思ったら、今度は大学というものがどんなものか知りたいと言ひ出し、やはりこれも夜間である立正大学を受験、合格。しばらくすると、大学とはどんなものかわかったから、もう良いと言ひ、やめてしまふ。そして給油係から事務職になってしまった。コンドルグループも辞めてしまふ。東京で単身赴任していた父親と同居していた事もあり、また妙な博才があつて、パチンコと麻雀でかなりの金額を稼ぐので、本人の定職を持たぬ気ままな（と思える…）生活が始まった。齡



25歳、やばい！このまま行くと「フーテンの寅さん」への道にまっしぐら、とまともや焦った父親が思いついた奇策が「中国へ行け！」という本人にとっては寝耳に水、思いもよらない途であった。

何故中国へ？

2001年10月、父親とオリジンの佐藤会長が中国へ行った。佐藤会長のお父さんが昔静岡県日中友好協会の会長だった縁もフル活用して、デベロッパの社長やその子会社のソフトハウスなどとの交流を行った。そこですっかり中国付いた大樹の父親は、これからは中国とビジネスと思ひ込んだが、当時のオリジン（今もあまり変わらないが）と、中国とではビジネス上の接点が高い。ならばフラフラしている息子を中国に送り込んでしまえ！と思ひついたのである。もちろんオリジンという会社は役員の子供は入社を認めないから、直接仕事の接点が出る訳では無いが、中国熱に駆ら

れた父親は早速息子に「中国へ行ったら」と半強制的な説得を始めたのである。息子も多分他にやることもないし：と、渋々この「中国行き」を承諾した！早速静岡市内の中国語の学校に少し通って、翌年の2002年の2月に中国の浙江大学の全寮制語学学校に入り、中国語の勉強を始めた。この語学学校には九十人を超える日本人が留学していたが、大半は中国語もものにならず帰国してしまう。全寮制なので世界が狭く、日本人仲間とのみ付き合い、しかも物価が安く、日本円の使い度があるので結構遊んでしまいうらしい。わが息子も大いにその危険性があったのだが、その救い主が現在の奥さんという訳である。彼女は義父としての私が言うのもなんだが、自分の息子には勿体無い位の美人で、彼の暮す大学の構内にある病院の受付事務をしていた。訪中して3か月もたため、まだ中国語もろくに喋れぬ内に彼女に病院で遭遇したわが息子は、以後頻繁に病気になる(?)、彼

女へのアプローチの為にさぞかし真剣に中国語を勉強したと思われ、なんと1年もしない内に寮を出て、彼女とアパートに住むようになったしまった。親に似ず誠に手が早い。が、お陰で中国語の上達も早く、2年もせずに独力でDVDの製作やマニュアル印刷の大手中国企業を探し出し、首尾よく就職をした。さらにたまたまその中国企業の顧客である日本企業が、その中国企業との小さな合併会社を作り、その会社の副総経理として息子を抜擢してくれた。当時たしか30歳位だと思いが、他人のリスクとは言葉、マネージメントの世界を経験させて貰えるのは良い経験になる。またマネージメントの立場に ついたからこそ、親子の共通の話題も生まれてきたりする。どうやら息子はこのコラム団塊耕志録の熱心な読者の様で、先日の第19回のコラム「協業とオープンマインド！」についてこんな感想をメールで寄せてくれた。

「今回は面白いと言うか僕にとっても大変為になりました。特にコラボの部分です。身内びいきかもしれないけど、お父さんの文章を読んで泣きそうになるくらい感慨を受けると言うか、嬉しい気持ちになりました。僕も最近ビジネス（利益を出す）という面において賢い人達にでくわし、自分はその商人には向いてないしそこまで賢くないなど感じます。勿論賢い人達はそういう知識を培う勉強もしている人達で営業トークもすごいですが、表面はくの為という大義名分は作るけど、結局自己自社の利益に走る。結果長い付き合いはできない。会社だから利益は必要だけと思 想、志というのは彼らには感じません。人を動かす力というのは最終はお金ではないなと思います。勿論そういうリーダーになれる人は限られており、皆が



皆力やお金があるだけではなれないと思います。この両親の元に生まれて良かったといつも思います」
この最後の2行の言葉は、世の両親が受け得る最高の目に見えない報酬だと思おう。果たして客観的に見てその評価に値するかどうかは別として、そう息子に思っただけでも親としては嬉しい。ある意味、半分親の我が儘で強いられた中国行きを前向きに受け止め、挑戦して、独力で自分の世界を作り、自分自身への誇りを獲得した彼が、中国女性と結婚し、一子を授かり、国際結婚であるが故の予想される幾多の困難を乗り越え、新しい親子関係を作り上げて、その子拓海から「お父さんとお母さんの子供で良かった」と言われるように成る事を願わずにいられない。

(2010年
7月19日記)

プリンター一体型業務用アルコール測定器

ALC-mini III
¥83,000より
アルコールだけに反応 音声ガイドで簡単操作

コンパクトなボディにプリンタ機能搭載！
吹き込む・測定する・記録する、の
カンタン3ステップアルコール測定！



息を吹いて下さい。

2011～2012年にかけて、全ての事業者はアルコール測定器の使用が義務付けられます。
(事業用自動車総合安全プラン2009)

義務化に向けて
備えの**1台**です！

※表示金額には消費税、保守料等は含まれておりません。

お申し込みお問い合わせ **株式会社 システムオリジン** Tel.03-3834-8352

関東支店営業本部 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-4 田中ビル7F 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州

製造元

TD 東海電子株式会社
http://www.tokai-denshi.co.jp